

景気ウォッチャー調査

Economy Watchers Survey

平成 15 年 8 月調査結果

平成 15 年 9 月 8 日

内閣府政策統括官
(経済財政・景気判断・政策分析担当)

今月の動き（8月）

8月の現状判断DIは、前月比で1.5ポイント上昇の46.4となり、3か月連続の上昇となった。

家計動向関連DIは、衣料品、飲食料品等の夏物商品が天候不順の影響により不振だったものの、秋物衣料や新型家電製品等に動きがみられたことから上昇した。企業動向関連DIは、サービス業を中心に非製造業が持ち直したことから上昇した。雇用関連DIも、求人数の増加が続いていることから上昇した。

8月の先行き判断DIは、前月比で2.1ポイント上昇の48.9となり、5か月連続の上昇となった。

先行き判断DIは、自動車、家電製品等の新商品投入効果に対する期待、雇用情勢の回復に対する期待等により上昇した。

景気ウォッチャーによる判断を総合すると、景気は持ち直しの動きが続いているとのことであった。

目 次

調査の概要	2
利用上の注意	4
D I の算出方法	4
調査結果	5
I . 全国の動向	6
1 . 景気の現状判断 D I	6
2 . 景気の先行き判断 D I	7
II . 各地域の動向	8
1 . 景気の現状判断 D I	8
2 . 景気の先行き判断 D I	10
III . 景気判断理由の概要	12
(参考) 景気の現状水準判断 D I	25

調査の概要

1. 調査の目的

地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の範囲

(1) 対象地域

北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄の11地域を対象とする。各地域に含まれる都道府県は以下のとおりである。(なお、平成12年1月調査の対象地域は、北海道、東北、東海、近畿、九州の5地域、平成12年2月調査から9月調査までの対象地域は、これら5地域に関東を加えた6地域である。)

地域	都道府県	
北海道	北海道	
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟	
関東	北関東	茨城、栃木、群馬、山梨、長野
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
東海	静岡、岐阜、愛知、三重	
北陸	富山、石川、福井	
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
四国	徳島、香川、愛媛、高知	
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
沖縄	沖縄	
全国	上記の計	

(2) 調査客体

家計動向、企業動向、雇用等、代表的な経済活動項目の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種の適当な職種の中から選定した2,050人を調査客体とする。調査客体の地域別、分野別の構成については、別紙を参照のこと。

3. 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
 - (2) (1)の理由
 - (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
 - (4) 景気の先行きに対する判断(方向性)
 - (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断(水準)

4. 調査期日及び期間

調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月25日から月末である。

5. 調査機関及び系統

内閣府が主管し、各調査対象地域に地域ごとの調査を実施する「地域別調査機関」を1か所ずつ設けるとともに、各地域別調査機関による地域ごとの調査結果を集計・分析する「取りまとめ調査機関」を1か所設け、これらの機関に本調査業務を委託して実施したものである。

(取りまとめ調査機関)		財団法人	日本経済研究所
(地域別調査機関)	北海道	株式会社	北海道二十一世紀総合研究所
	東北	財団法人	東北開発研究センター
	北関東	財団法人	日本経済研究所
	南関東	財団法人	日本経済研究所
	東海	株式会社	UFJ総合研究所
	北陸	財団法人	北陸経済研究所
	近畿	りそな総合研究所株式会社	
	中国	社団法人	中国地方総合研究センター
	四国	四国経済連合会	
	九州	財団法人	九州経済調査協会
	沖縄	財団法人	南西地域産業活性化センター

6. 有効回答率

地域	調査客体	有効 回答客体	有効 回答率	地域	調査客体	有効 回答客体	有効 回答率
北海道	130人	121人	93.1%	近畿	290人	242人	83.4%
東北	210人	205人	97.6%	中国	170人	170人	100.0%
北関東	200人	159人	79.5%	四国	110人	100人	90.9%
南関東	330人	274人	83.0%	九州	210人	187人	89.0%
東海	250人	212人	84.8%	沖縄	50人	42人	84.0%
北陸	100人	95人	95.0%	全国	2,050人	1,807人	88.1%

利用上の注意

1. 分野別の表記における「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、企業動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、雇用関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断を示す。
2. 表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しない場合がある。

DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、DIを算出している。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

調査結果

- I. 全国の動向
 - 1. 景気の現状判断D I
 - 2. 景気の先行き判断D I
- II. 各地域の動向
 - 1. 景気の現状判断D I
 - 2. 景気の先行き判断D I
- III. 景気判断理由の概要
(参考) 景気の現状水準判断D I

(備考)

1. 「景気判断理由の概要 全国」(12頁)は、「現状」、「先行き」ごとに区分した3分野(「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」)に該当する地域の特徴的な判断理由を選択し、5つの回答区分(「良」、「やや良」、「不変」、「やや悪」、「悪」)ごとに判断が良い順に掲載した。
2. 「現状判断の理由別(着目点別)回答者数の推移」(13頁)は、全国の「現状判断」の回答のうち3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数の多い上位3区分(雇用関連は上位2区分)の判断理由として特に着目した点について、直近3か月分の回答者数を掲載した。
3. 14~24頁は、各地域の景気判断理由の要約である。そのうち、「現状」欄は、地域の「現状判断」の回答のうち、3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数が多かった上位3区分(雇用関連は上位2区分)を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それら上位回答区分の中における代表的な回答である。「その他の特徴コメント」欄は、「判断の理由」欄に掲載されたもの以外で、特徴と考えられるコメントを掲載した。また、「先行き」欄は3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数が多かった上位2区分(雇用関連は上位1区分)を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それらにおける代表的な回答である。なお、「その他の特徴コメント」欄は「現状」と同様である。

I. 全国の動向

1. 景気の現状判断D I

3か月前と比較しての景気の現状に対する判断D Iは、46.4となった。家計動向関連、企業動向関連、雇用関連のすべてのD Iが上昇したことから、前月を1.5ポイント上回り、3か月連続の上昇となった。また、横ばいを示す50を37か月連続で下回っている。

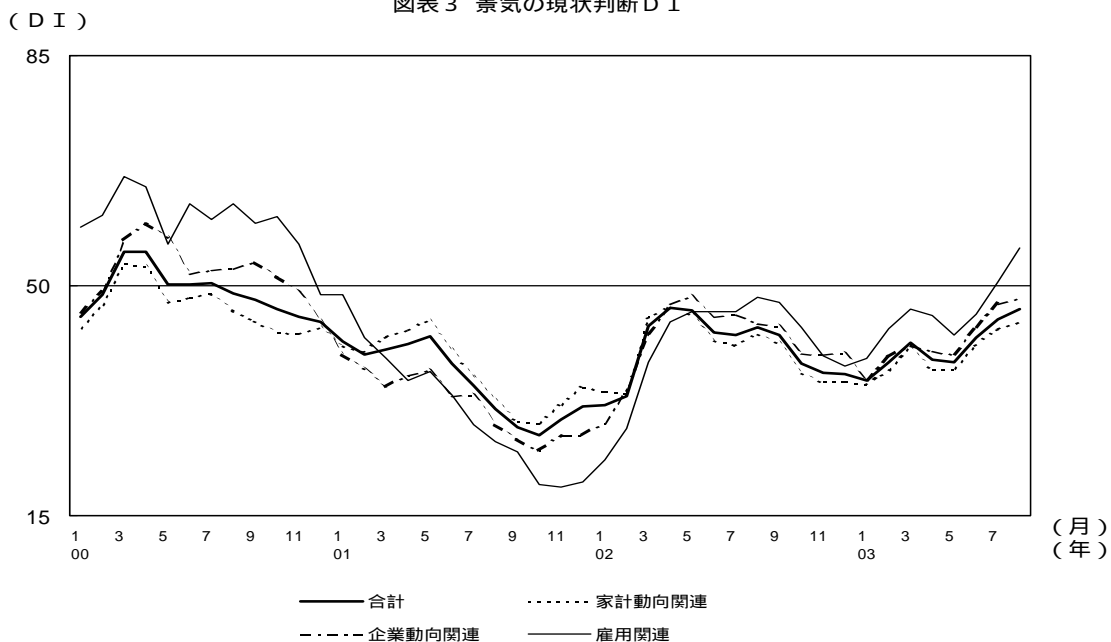
図表1 景気の現状判断D I

(D I)	年 2003						(前月差)
	月 3	4	5	6	7	8	
合計	41.3	38.7	38.4	42.1	44.9	46.4	(1.5)
家計動向関連	40.6	37.3	37.4	41.0	43.4	44.5	(1.1)
小売関連	39.0	36.9	37.7	40.4	40.8	42.4	(1.6)
飲食関連	41.5	37.6	37.3	37.0	43.8	39.7	(-4.1)
サービス関連	42.3	37.3	35.6	43.2	48.6	50.7	(2.1)
住宅関連	45.2	39.8	42.6	41.5	44.4	40.7	(-3.7)
企業動向関連	40.9	40.2	39.5	43.6	47.2	48.1	(0.9)
製造業	41.8	39.7	39.6	44.6	48.5	48.8	(0.3)
非製造業	40.0	40.6	39.2	42.6	45.7	47.6	(1.9)
雇用関連	46.5	45.5	42.4	45.7	50.6	55.8	(5.2)

図表2 構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	D I
2003	6	0.8%	12.7%	49.7%	27.4%	9.3%	42.1
	7	1.0%	17.7%	49.6%	23.2%	8.5%	44.9
	8	1.3%	20.4%	47.7%	23.8%	6.8%	46.4
(前月差)		(0.3)	(2.7)	(-1.9)	(0.6)	(-1.7)	(1.5)

図表3 景気の現状判断D I



2. 景気の先行き判断D I

2～3か月先の景気の先行きに対する判断D Iは、48.9 となった。家計動向関連、企業動向関連、雇用関連のすべてのD Iが上昇したことから、前月を2.1ポイント上回り、5か月連続の上昇となった。また、横ばいを示す50を35か月連続で下回っている。

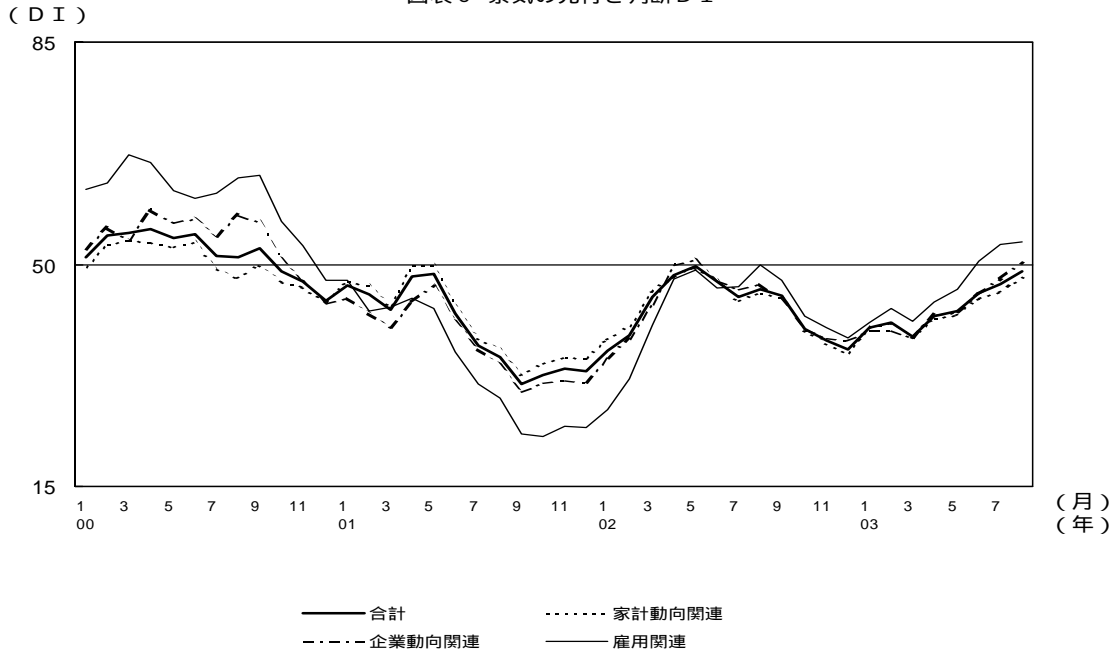
図表4 景気の先行き判断D I
(D I) 年 2003

	月 3	4	5	6	7	8	(前月差)
合計	38.6	41.9	42.6	45.4	46.8	48.9	(2.1)
家計動向関連	38.4	41.5	42.1	44.6	45.7	47.8	(2.1)
小売関連	38.5	41.3	41.9	42.8	44.2	46.7	(2.5)
飲食関連	35.3	42.0	38.9	43.8	47.4	47.2	(-0.2)
サービス関連	38.3	41.0	43.9	48.8	49.1	50.8	(1.7)
住宅関連	41.1	45.8	40.6	44.2	43.5	46.5	(3.0)
企業動向関連	38.3	42.0	42.5	45.3	47.6	50.3	(2.7)
製造業	39.1	40.4	43.8	47.2	51.4	50.7	(-0.7)
非製造業	37.2	43.5	41.0	43.5	44.1	49.9	(5.8)
雇用関連	41.0	44.1	46.0	50.5	53.2	53.5	(0.3)

図表5 構成比

年 月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	D I
2003 6	0.8%	14.1%	58.0%	20.4%	6.8%	45.4
7	0.7%	16.7%	58.1%	18.3%	6.2%	46.8
8	1.5%	21.0%	53.8%	18.8%	4.8%	48.9
(前月差)	(0.8)	(4.3)	(-4.3)	(0.5)	(-1.4)	(2.1)

図表6 景気の先行き判断D I



II. 各地域の動向

1. 景気の現状判断D I

前月と比較しての現状判断D I（各分野計）は、全国 11 地域中、9 地域で上昇、2 地域で低下した。最も上昇幅が大きかったのは四国（4.2 ポイント上昇）、低下したのは北関東（1.1 ポイント低下）と東北（0.3 ポイント低下）であった。

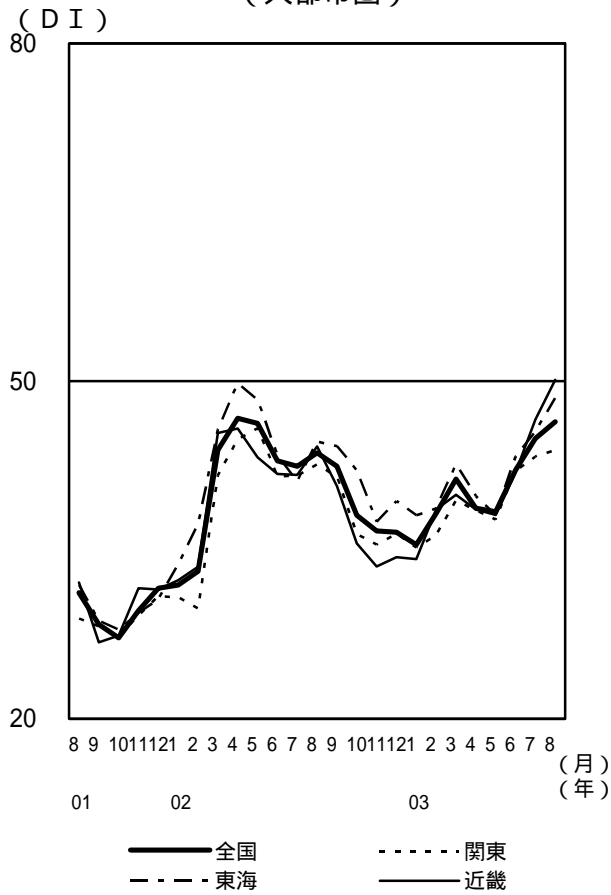
図表7 景気の現状判断D I（各分野計）

(D I)	年 月	2003 3	4	5	6	7	8	(前月差)
全国		41.3	38.7	38.4	42.1	44.9	46.4	(1.5)
北海道		42.2	33.5	35.0	41.7	44.8	46.1	(1.3)
東北		39.3	35.8	38.5	40.2	42.0	41.7	(-0.3)
関東		39.4	38.5	37.7	42.0	43.3	43.9	(0.6)
北関東		38.9	38.3	38.8	41.7	42.5	41.4	(-1.1)
南関東		39.8	38.6	37.1	42.2	43.7	45.4	(1.7)
東海		42.6	39.8	38.1	43.3	45.5	48.5	(3.0)
北陸		39.9	38.7	42.3	42.8	41.3	41.8	(0.5)
近畿		39.9	38.6	38.1	41.9	46.6	50.1	(3.5)
中国		45.1	42.9	41.5	42.6	46.9	47.6	(0.7)
四国		42.9	39.4	37.3	42.2	44.6	48.8	(4.2)
九州		43.3	40.4	38.8	40.9	46.2	47.5	(1.3)
沖縄		43.5	39.3	36.3	47.5	58.7	58.9	(0.2)

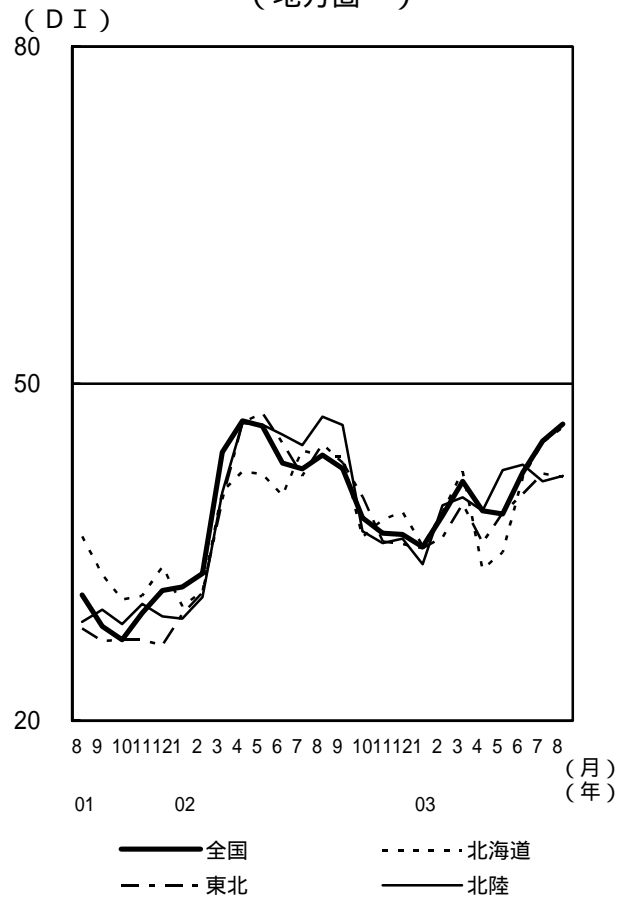
図表8 景気の現状判断D I（家計動向関連）

(D I)	年 月	2003 3	4	5	6	7	8	(前月差)
全国		40.6	37.3	37.4	41.0	43.4	44.5	(1.1)
北海道		41.0	28.6	32.7	42.6	44.5	43.1	(-1.4)
東北		39.9	34.7	37.5	38.7	39.8	40.0	(0.2)
関東		38.7	37.7	37.2	41.9	40.8	41.5	(0.7)
北関東		40.0	38.5	38.8	41.4	40.7	39.2	(-1.5)
南関東		38.0	37.3	36.3	42.2	40.9	42.8	(1.9)
東海		42.0	37.9	36.5	40.6	44.1	46.1	(2.0)
北陸		37.9	35.8	42.5	42.0	40.2	38.3	(-1.9)
近畿		37.9	37.7	37.6	41.4	45.5	49.5	(4.0)
中国		45.2	41.0	40.5	39.3	44.5	45.4	(0.9)
四国		43.5	39.3	36.0	39.8	45.0	48.1	(3.1)
九州		43.0	40.6	38.5	40.9	45.0	46.1	(1.1)
沖縄		40.2	33.6	29.6	47.1	61.2	58.9	(-2.3)

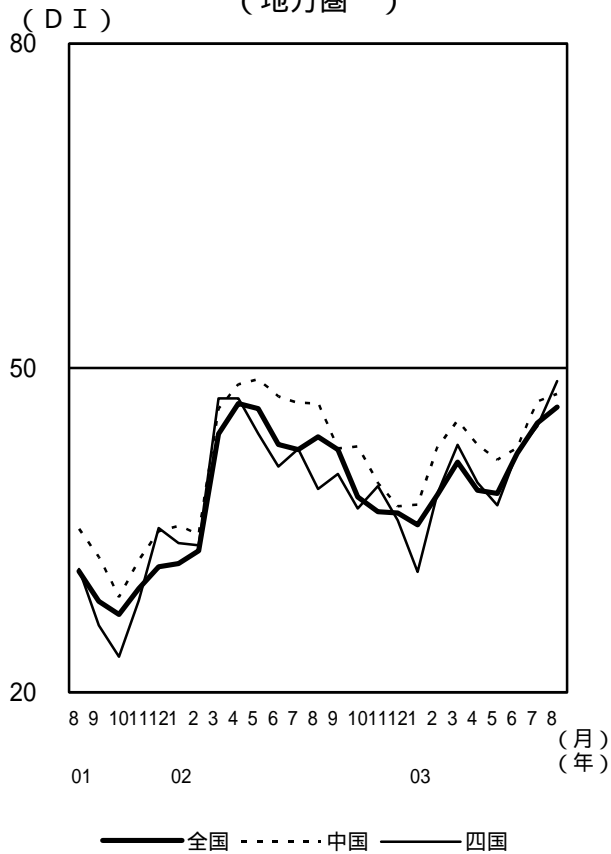
図表9 地域別D I (各分野計)
(大都市圏)



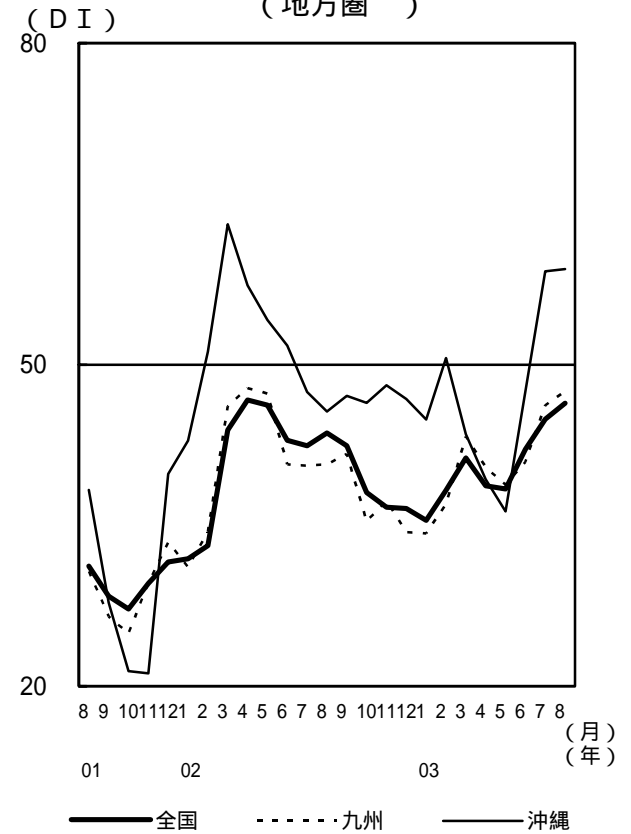
図表10 地域別D I (各分野計)
(地方圏)



図表11 地域別D I (各分野計)
(地方圏)



図表12 地域別D I (各分野計)
(地方圏)



2. 景気の先行き判断D I

前月と比較しての先行き判断D I（各分野計）は、全国 11 地域中、9 地域で上昇、2 地域で低下した。最も上昇幅が大きかったのは南関東（4.0 ポイント上昇）、低下したのは北海道と沖縄（1.1 ポイント低下）であった。

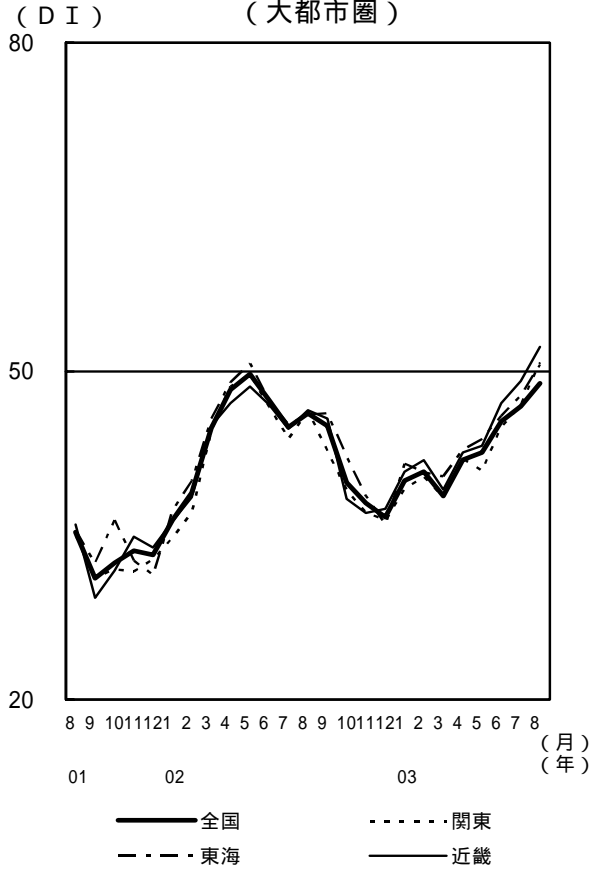
図表 13 景気の先行き判断D I（各分野計）

(D I)	年 月	2003 3	4	5	6	7	8	(前月差)
全国		38.6	41.9	42.6	45.4	46.8	48.9	(2.1)
北海道		39.0	40.7	42.1	47.2	47.6	46.5	(-1.1)
東北		35.9	39.4	41.3	40.6	43.6	44.0	(0.4)
関東		38.5	42.0	40.9	44.9	46.9	50.8	(3.9)
北関東		38.3	41.3	41.7	43.7	45.3	49.1	(3.8)
南関東		38.7	42.4	40.5	45.6	47.8	51.8	(4.0)
東海		40.4	42.8	43.8	45.9	47.8	50.6	(2.8)
北陸		38.4	42.9	42.6	45.4	42.6	45.3	(2.7)
近畿		39.2	42.6	43.2	47.1	49.1	52.2	(3.1)
中国		40.7	44.0	45.9	46.2	47.4	47.5	(0.1)
四国		38.5	40.4	41.3	45.5	46.4	49.3	(2.9)
九州		38.9	41.2	43.0	45.2	46.5	48.3	(1.8)
沖縄		31.5	42.9	47.0	54.4	51.7	50.6	(-1.1)

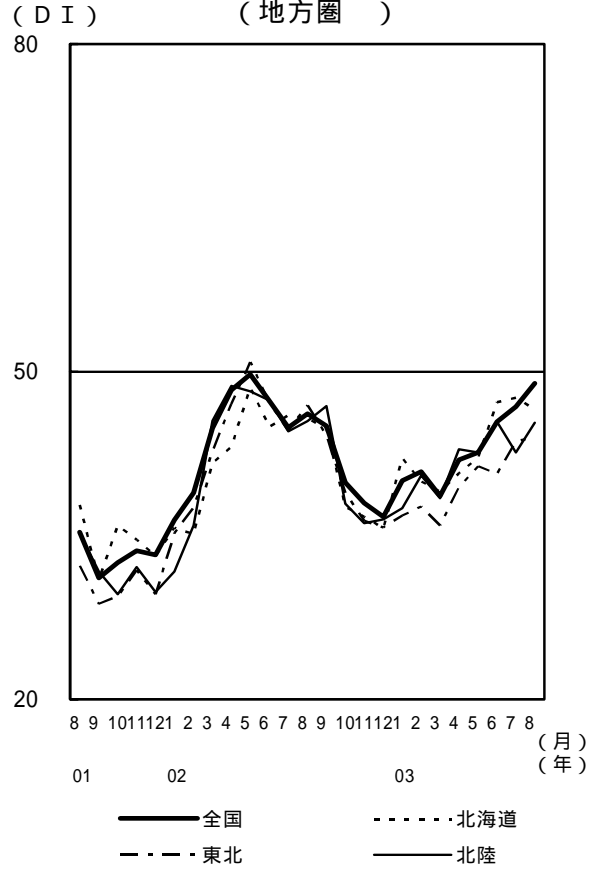
図表 14 景気の先行き判断D I（家計動向関連）

(D I)	年 月	2003 3	4	5	6	7	8	(前月差)
全国		38.4	41.5	42.1	44.6	45.7	47.8	(2.1)
北海道		38.4	39.3	41.4	47.9	47.1	44.0	(-3.1)
東北		35.8	38.8	40.1	38.5	42.2	44.0	(1.8)
関東		38.1	42.2	40.6	44.9	45.4	49.0	(3.6)
北関東		39.3	41.8	42.0	44.6	44.8	46.9	(2.1)
南関東		37.4	42.4	39.8	45.1	45.8	50.1	(4.3)
東海		40.0	41.5	43.5	44.9	47.0	50.2	(3.2)
北陸		36.4	41.2	40.9	43.9	41.7	43.8	(2.1)
近畿		39.1	43.0	43.2	46.3	47.3	51.2	(3.9)
中国		41.6	43.7	45.8	45.4	46.2	46.2	(0.0)
四国		36.9	39.3	41.9	45.1	46.9	48.1	(1.2)
九州		39.6	41.7	42.9	43.6	46.0	48.2	(2.2)
沖縄		32.1	42.2	42.6	54.8	50.0	49.1	(-0.9)

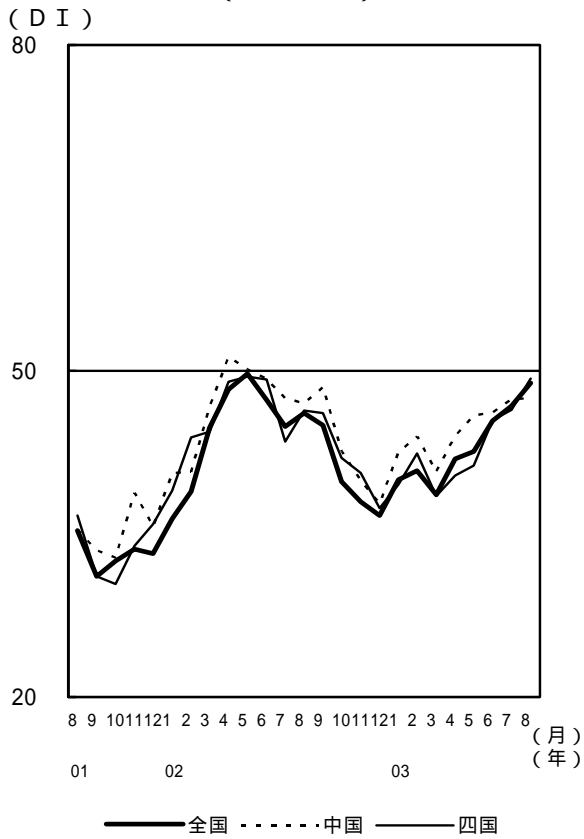
図表15 地域別D I (各分野計)
(大都市圏)



図表16 地域別D I (各分野計)
(地方圏)



図表17 地域別D I (各分野計)
(地方圏)



図表18 地域別D I (各分野計)
(地方圏)



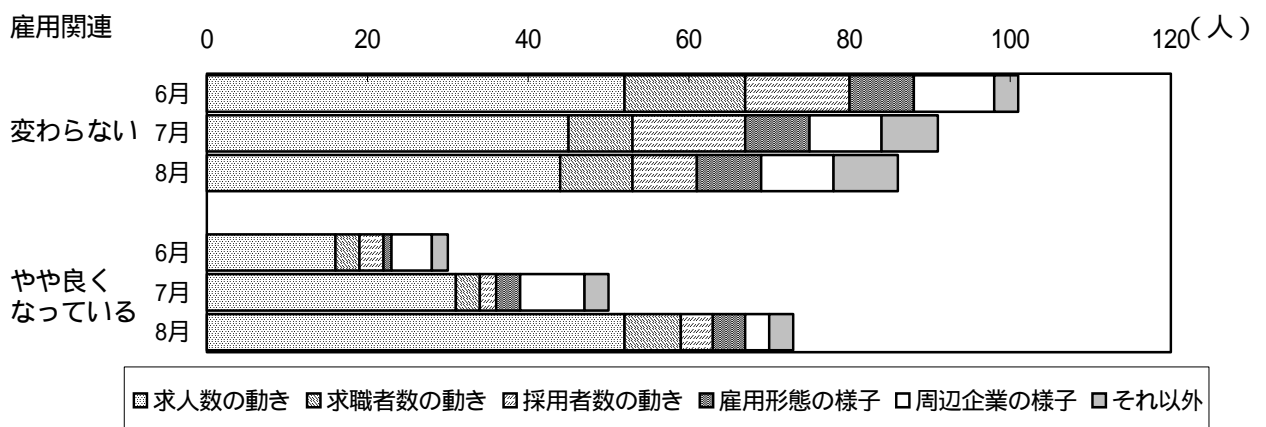
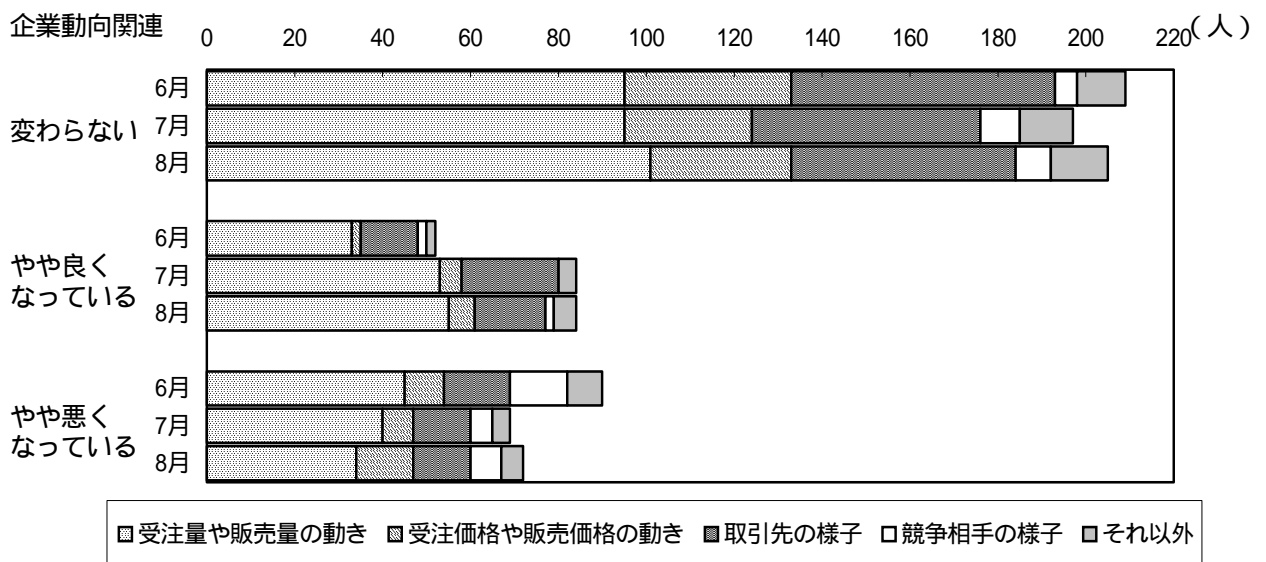
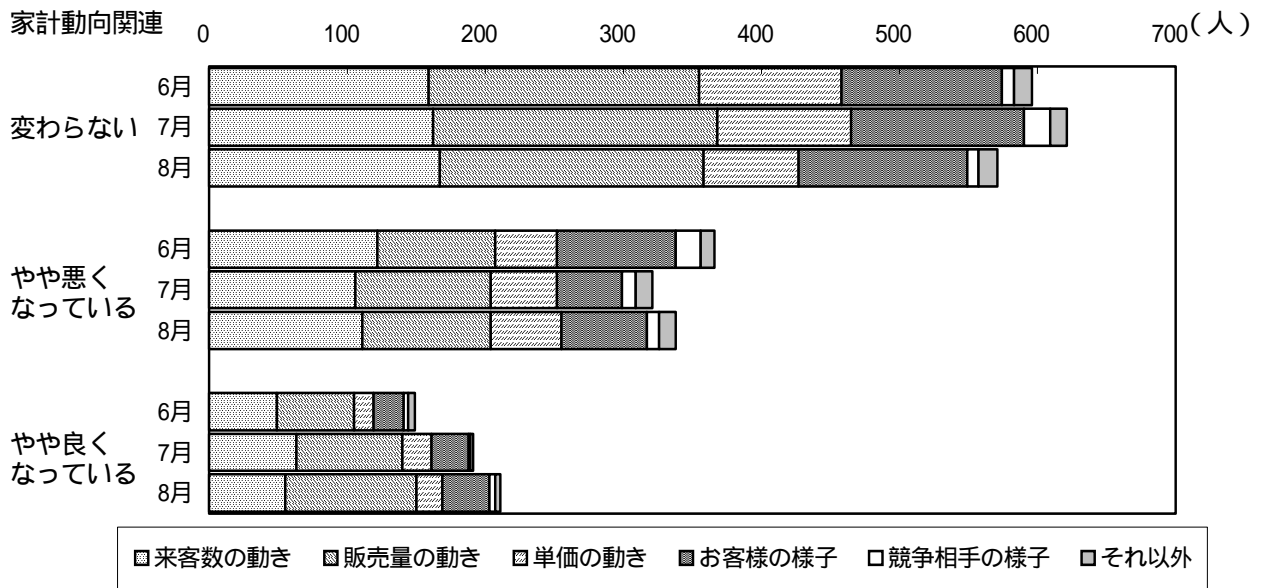
III. 景気判断理由の概要

全国

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野	判断	特徴的な判断理由	
現 状	家計 動向 関連	<ul style="list-style-type: none"> ・高額時計の販売会では、結果が前年比110%となるなど、高額品に動きが出てきている。また、消費の回復が一番遅いと言われていた紳士服関連の商況も、前年比プラスに転じるなど、徐々にではあるが、商況が上向き現象が現れている(南関東=百貨店) ・大型のプラズマテレビと液晶テレビが、キャンペーン効果もあって大幅に伸びている。同じサイズのブラウン管式と比べて単価が2倍以上のため、売上に大きく寄与している(北陸=家電量販店) ・夏物衣料品は低温が続いて低迷しているが、すでに立ち上がっている秋物衣料品に動きがみられる。素材感のある高額商品の動きも順調で、購買平均単価も上昇傾向にある(近畿=百貨店)。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・異常気象の影響で、特に前半がひどく、青果物、飲料、ビール、お盆のギフトがなかなか売れない。来客数、販売点数とも落ち込んでいる(北関東=スーパー) 	
	企業 動向 関連	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅ローン減税が縮小されることを見越した住宅の駆け込み需要で、タイル、陶磁器、衛生陶器やそれらの原料が好調である(東海=窯業・土石製品製造業) 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・通信業界は非常に上向きになっている。ブロードバンド回線も計画額を大幅に上回り、また、案件も計画以上に進ちょくしている(北陸=通信業) 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・全国的な冷夏と長雨が続くなかで、農作物や水産物も異常なまでの不作不漁の渦中にあり、食料品製造では原材料価格の高騰がみられるなど、コストの上昇で苦慮している(北海道=食料品製造業) 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・半導体大手の動きは、在庫調整によりやや鈍っている。また、同業他社も、8月に入ってから動きが非常に鈍いという話を聞く(九州=電気機械器具製造業) 	
	雇用 関連	<ul style="list-style-type: none"> ・営業・販売職、テレマーケティング部門で求人が増加傾向にある。これらは企業の販売力増強につながる職種であり、良い方向への動きである(九州=民間職業紹介機関) 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・派遣需要は安定し、若干増加傾向にあるものの、特殊な資格所持者やソフト関連の専門職、中高年、女性の単純作業などの依頼が多く、単純な入力作業や一般事務が全くないので、契約が成立しないケースが多い。不況のためか、派遣スタッフはほとんど辞めず、安定している(北関東=人材派遣会社) ・飲食業、コールセンター関連業に関しては多くの求人があり、雇用状況は好転しているように感じられるが、それらの業種では就職しても定着率が悪く、長続きしない傾向があることから、依然として状況は厳しい(沖縄=求人情報誌製作会社) 	
	先 行 き	家計 動向 関連	<ul style="list-style-type: none"> ・10月からのパソコンの改正リサイクル法施行前の駆け込みや、地上波デジタル対応のフラットテレビ、ハードディスク付きDVDレコーダー、デジタル一眼レフなど、秋以降の新製品に期待している(南関東=家電量販店) ・他社が9月以降メイン車種のフルモデルチェンジで新型車を相次いで投入するため、市場全体が活性化(東海=乗用車販売店) ・宝飾、時計や海外ブランドなどの高額品に対する購買意欲が高まっている。百貨店では高額品がけん引役となり一般商品に拡大していく傾向があるため、秋物衣料品がスムーズに立ち上がれば、年末まで拡大基調は続く(近畿=百貨店)
			<ul style="list-style-type: none"> ・今年前半はSARSやイラク戦争など観光にとって心理的悪材料があった反動で、秋口にかけては団体の予約人数にやや明るさがある(北陸=テーマパーク)
<ul style="list-style-type: none"> ・住宅ローン減税に伴う動きが見られなくなり、金利も上向いてきたことから、住宅需要は冷え込む(九州=住宅販売会社) 			
企業 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・中国との輸出入がSARS問題から回復し、更にクリスマス商品に向けての部材の動きが活発化しており、上向きになる(東北=輸送業) ・今まで銀行には見向きもされなかったが、ここへきて中小企業融資ということで、積極的な姿勢が出てきた。金融機関のバックアップが前向きになってきていると考えられることから、先行きに期待できる(近畿=窯業・土石製品製造業) 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・冷夏の影響もあり、いまだに消費者意識は盛り上がり欠けている。総選挙があると外食を中心に食品の消費が落ち込む点も不確定要素である(北海道=食料品製造業) 	
雇用 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・管内の基幹産業である製造業の求人は、増減を繰り返しながらもやや増加傾向であり、他の業界も、直接雇用からパート、派遣に移行はしているが増加傾向にある(東海=職業安定所) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・パートを含む有効求人倍率は0.48倍と7か月ぶりに改善した。しかし、警備業、美容師、看護師など一部業種での求人増加が要因であり、全体的な改善傾向は感じられない(四国=職業安定所) 		

図表19 現状判断の理由別（着目点別）回答者数の推移

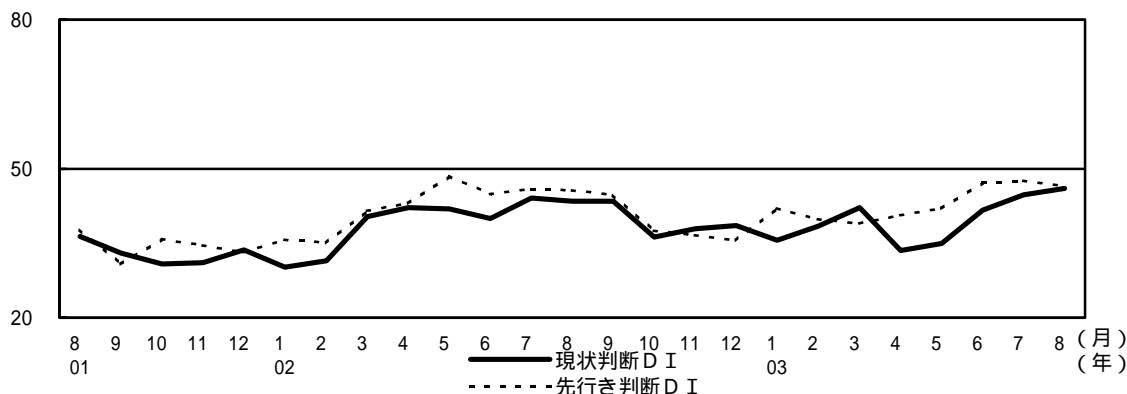


1. 北海道

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	・秋物商品の時期になり、夏場よりも単価は上がっているが、その分購入点数が少なくなっている。単価の高いものに関しては一点のみで、まとめて買い上げてもらう場合は少なくなっている(衣料品専門店)。
		・冷夏でアイスクリームやビール等の売行きが不振なことに加えて、野菜を除いた全般的な販売単価の下落が続いている(スーパー)。
		・SARSの影響もだいぶ落ち着き、3か月前に比べると空港の乗降客が増えてきているようだ。国内旅行でも、団体客はそれほど多くないが、夏のツアーが堅調であるという情報もある(一般小売店[土産])。
	企業 動向 関連	・設備資金は低調であるが、300万円程度の運転資金の需要は堅調となっている。全般的には、冷夏や台風被害により関連業界で落ち込みが見られ、全体としては変わらない(金融業)。
		・宴会関係では、定期的に行われるものが予定通り実施されている(その他企業[コンベンション担当])。
	雇用 関連	・建設業が依然として前年を大きく下回っているが、他の業種では順調に推移しており、全体としては変わらない(求人情報誌製作会社)。
・販売促進活動が活発になってきたようだ。イベント等も多く行われ、それに伴うスタッフの依頼が多かった(人材派遣会社)。		
その他の特徴 コメント	: サッカーやプロ野球等、集客力のあるイベントが数多く開催され、それに伴い関連グッズの販売も好調であった。また、観光シーズンでもあるため、イベントの無い日も観光客が多く訪れ、菓子を中心とした売上も大きかった(その他レジャー施設)。 : 浴衣の売上が前年に比べて大変良かったが、浴衣以外の夏物商品は冷夏を反映してか、あまり良くなかった(商店街)。	
先行き	家計 動向 関連	・今年もいろいろな全国大会やビジネス会議があるようなので、今後も変わらない(商店街)。
		・冷夏の影響がじわじわ効いてきており、道外客は海外というより沖縄を志向し、地元客は農業生産者も年配者も、旅行に二の足を踏んでいる(観光型ホテル)。
	企業 動向 関連	・農作物の作柄が心配される。特に大規模栽培作物は地域に与える影響が大きく、組み立て作業が最盛期の秋作業農機具製造業者では大いに心配している(その他非製造業[機械卸売])。
		・取引先の動向として、異業種への参入や新規市場の開拓など、ここしばらく聞こえなかった積極的な動きがみられるようになってきた(通信業)。
	雇用 関連	・求人数は増加しているが、本州の製造業の影響などが主な原因であり、他の業種では顕著な増加はみられない(求人情報誌製作会社)。
	その他の特徴 コメント	: この地域特有の問題だが、炭鉱が閉山した後遺症が相当出ているようで、非常に厳しい状況がずっと継続している(家電量販店)。 : 近いうちに選挙があるのではないかとと思われるが、これまでも選挙のある年は商売が悪かったので、今後はやや悪くなる(衣料品専門店)。

(D I) 図表20 現状・先行き判断D Iの推移

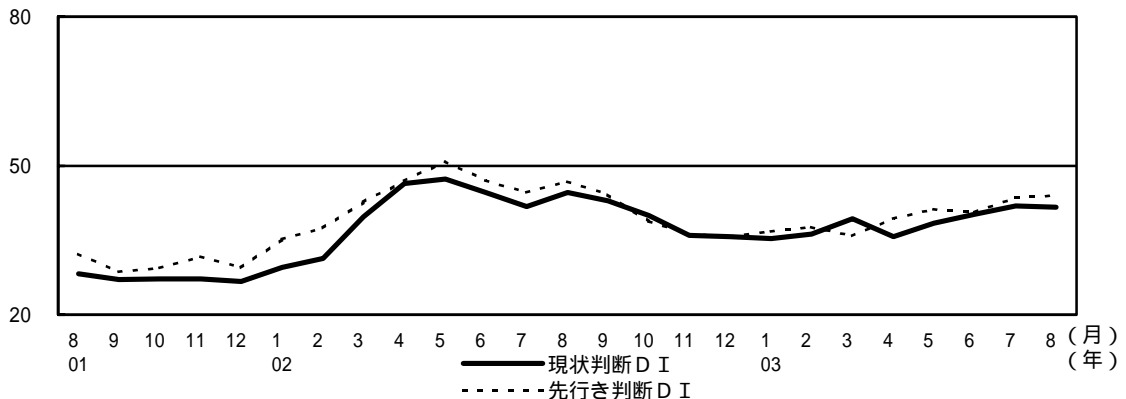


2. 東北

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
			・買上点数、買上率、買上単価の下落が大きく、特に夏物商品であるアイスクリーム、飲料、殺虫剤が低迷している。またたばこの売上減少も予想以上である(スーパー)。
			・8月は実稼働日数が少なく、来客数も少ないが、価格帯が1,200万円台の輸入車のカタログを求めて来店する人が多く、意欲を感じる(乗用車販売店)。
企業 動向 関連			・工事の見積の問い合わせ件数は増加している。しかし、価格が低下しており、総体的には変わらない(建設業)。
			・自動車部品は、輸出用は比較的好調であるが、国内の自動車販売の一部に陰りが出てきていることの影響が出ている。また、為替がやや円高方向に振れているため、輸出環境が悪くなっている(一般機械器具製造業)。
雇用 関連			・冷夏により、清酒の消費がこのところ増えている(食料品製造業)。
		・若年層の新規求職が依然として多く、また、中高年齢層の有効求職者が滞留を続けており、変化が見られない(職業安定所)。	
その他の特徴 コメント			・臨時、パートは減少しているものの、常用が大きく増加しており、主要産業のサービスの他、製造業でも持ち直しの兆しが見える(職業安定所)。 ：品揃えを100%秋物にしたが、残暑が厳しいため、動きが悪い。しかし、今年の夏祭りでは人出が多く、前年比2けた台の増加である(衣料品専門店)。 ：1,200坪を上回る大型ショッピングセンター出店の影響が目に見えて現れている。週末や休日の人通りがかなり少なくなり、来客数も減っている(一般小売店[書籍])。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・家電業界では、各種新製品、特に地上波デジタル対応のテレビなどが出てくるため、商品的に購買動機に結び付きやすい環境になるが、冷夏の影響が商業従事者にまで出ており、結果的にはあまり変わらない状態になる(家電量販店)。
			・冷夏の影響による米の作況指数の悪化により、農家の収入減が予測される。農業従事者の多い地域での消費への影響が懸念される(スーパー)。
	企業 動向 関連		・新札対応の特需、または年末対応の機器の受注が見込まれるが、依然としてコストダウン要求が厳しく、今後どう展開するか分からない状況である(電気機械器具製造業)。
			・夏の収入の減少が、今後の消費活動に影を落とし、他の産業にも波及していくものと思われる(新聞販売店[広告])。
雇用 関連		・事業所訪問では、依然として企業の雇用マインドは低く、本格的な回復とはいえない(職業安定所)。	
その他の特徴 コメント			：中国との輸出入がSARS問題から回復し、更にクリスマス商品に向けての部材の動きが活発化しており、上向きになる(輸送業)。 ×：この辺の農家は、桃の生産で一年の生活を支えているが、今までになくとも悪いため、自分の生活だけで精一杯で、次の生産資材購入ができない(農林水産業)。

(D I) 図表21 現状・先行き判断D Iの推移



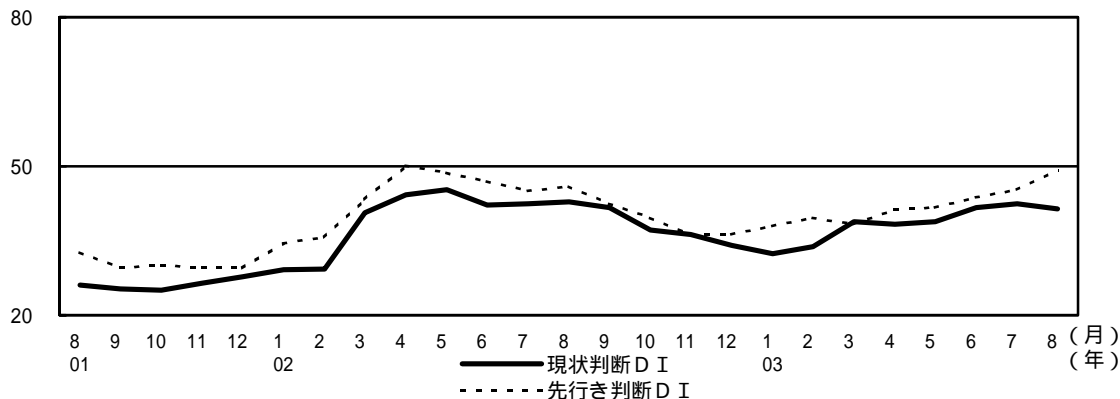
3. 北関東

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野	判断	判断の理由
		判断の理由
家計 動向 関連		・台風とお盆の大雨で、キャンセルが続出している。ゴルファー意識が以前と変わり、天気予報だけでキャンセルをするようになってきているので、自然相手に低料金のゴルフ場運営は厳しい(ゴルフ場)。
		・天候不順で低温の日々が続き、夏物衣料の売上が非常に悪くなっている(百貨店)。
		・8月は、新規加入数の大幅な伸びはみられないものの、月間目標には達成する。第三世代携帯電話の売行きも上向いている(通信会社)。
企業 動向 関連		・長雨、冷夏の影響で、富士山の登山者は富士吉田側で例年より2万人減少し、富士五湖の観光地では売店などの客数、売上が例年の半分程度となっている。周辺を取り巻く厳しい状況は変わらない(金融業)。
		・例年、夏休みで受注が減少するが、今年は極端に落ちている(電気機械器具製造業)。
		・暑さが戻り、新たな発注も入っており、生産量、売上が確実に増加している(食料品製造業)。
雇用 関連		・製造業を中心に持ち直してきているが、求人は依然として低調で、中高年、新卒に厳しい。経験者の求人もほとんどが35歳程度までであり、厳しい就職戦線は変わっていない(民間職業紹介機関)。
		・7月の新規求人は、前年同月と比べ31.7%増加し、有効求人も34.5%増加している。依然として派遣、請負が多いものの、一般の求人も確実に増加している(職業安定所)。 ・8月に2回開催された来春卒業予定者対象の合同就職面接会の参加企業は、前年の70%、求人数は60%程度である。求人内容も、専門的な知識を必要とする情報、機械、介護職が大半で、学生が希望する事務、販売職は25%である(学校[短期大学])。
その他の特徴 コメント		：SARSの影響も大分収まっている。海外旅行はまだ減少しているが、国内旅行は例年どおりになっているので、来客数は変わらない(旅行代理店)。 ：異常気象の影響で、特に前半がひどく、青果物、飲料、ビール、お盆のギフトがなかなか売れない。来客数、販売点数とも落ち込んでいる(スーパー)。
分野	判断	判断の理由
家計 動向 関連		・モーターショーに合わせ、各メーカーから新型モデルが発表、発売されるが、客は相変わらず慎重であり、伸びはあまり期待できない(乗用車販売店)。
		・前年と比べ、9、10月の運動会の打ち上げパーティ予約が減少している(一般レストラン)。
企業 動向 関連		・例年、冬場に需要が伸びる自動車駆動部ユニットの新規品について、増産を見込んでいる。建設機械関連では、中国向けを中心に年内は好調を維持する(一般機械器具製造業)。 ・特殊技術のある製造業で、受注が増加している取引先もあるが、利益率は低く、総じて変わらない(金融業)。
	×	・3か月後の受注量は、メーカー側の見通しが厳しく、前年比で約15%落ち込む見込みである。受注の減少は、給料、ボーナスに響き、悪い方向に向かう(輸送用機械器具製造業)。
雇用 関連		・求職者が正社員やフルタイムの常用雇用を希望するため、ミスマッチが生じ、求職期間が長期化している。また、企業の雇用調整も引き続き行われている(職業安定所)。
その他の特徴 コメント		：見積の段階に進み、契約の手前という客が増加している(住宅販売会社)。 ×：店舗周辺にある大型店が営業時間を延長した影響で、来客数が減少している。不安定な天候が、今後必ずしも良くなるとは限らないので、更に悪くなる(コンビニ)。

(D I)

図表22 現状・先行き判断D Iの推移



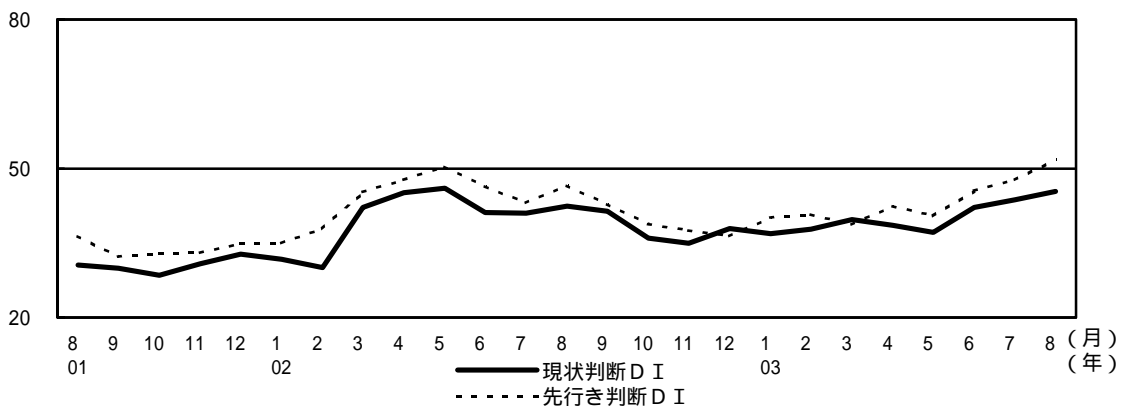
4. 南関東

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
			・都心のマンションは動きが良いが、郊外では土地が値下がりし、動きも悪い。消費者は質が良くて安い物件を探しているため、建設業界全体にとっては厳しい(設計事務所)
			・冷夏に対し、気温変化への対応が進んでいる売場と遅れてしまった売場とでは数字が大きく変わってきている。婦人衣料、紳士衣料、子供衣料に関しては、上手く対応したので、前年比2けたの伸びを示している(スーパー)
企業 動向 関連			・全体的には業務量は増えてきているが、8月は小、中規模のIT関連設備投資について、提案件数、受注件数ともに横ばい傾向であった(その他サービス業[情報サービス])
			・受注単価は競争が激しいため、希望価格より大分低くなっているが、受注工事の量は、以前より増加している(建設業)
雇用 関連			・原発の故障により、この夏電力が不足するというPRが行き届いたため、最近電力を消費する高級機種が全く売れなくなった(電気機械器具製造業)
		・事業主都合離職者が、前年同期比で30%を超える大幅な減少となるなど、全体では減少傾向にある中、新規求職者、パートについては、前年同期比2けた台の増加となっている(職業安定所)	
	その他の特徴 コメント		・求人全体の数は変わらないが、元気のある企業が1社で何人も採用する案件が出てきている(人材派遣会社) ：過去3か月の求人取扱状況を前年同期と比べると、全産業で5%台の増加となっている。特に、雇用吸収力の高い製造業で、3割弱の大幅増となっている。その中でも、電気、電子関連企業が正社員雇用を大幅に増やしている(職業安定所) ：8月11日より任意で、個人タクシー8,700台が深夜早朝3割増から2割増へ値下げしている。反響は今ひとつで、期待していたほど客足が増えていない(タクシー運転手)
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・個人需要については、来客数こそ減少しているものの、買上客数や単価、数量は、前年並みか、前年クリアの基調に変わってきている。一方で、法人需要はまだ低迷しているため、この動きが懸念材料として挙げられる(百貨店)
			・10月からのパソコンの改正リサイクル法施行前の駆け込みや、地上波デジタル対応のフラットテレビ、ハードディスク付きDVDレコーダー、デジタル一眼レフなど、秋以降の新製品に期待している(家電量販店)
	企業 動向 関連		・排ガス規制に対応した触媒あるいはDPF(ディーゼル微粒子除去装置)等の取り付けで、出費が重なったが、仕事は少ない(輸送業)
			・空調リニューアルの大型物件の引き合いがこのところ増えている。今年から来年にかけて、これらの引き合いが受注に結びつく(電気機械器具製造業)
雇用 関連		・新規求人数は、正社員が3か月連続で前年同月を既に上回り、パートも同様に上回る状況である。求人受理窓口では、今まで求人申込がなかった新たな事業所からの申込が、目立っている(職業安定所)	
	その他の特徴 コメント		：トラック部品メーカーなので、排ガス規制のための代替によって今は最も忙しい。来年のことは分からないが、あと2、3か月はまだ良くなると、やっと最近確信が持てるようになった状態である(輸送用機械器具製造業) ：冷夏の影響が出て、特に農作物の収穫が作況指数7%減と非常に懸念される(スーパー)

(DI)

図表23 現状・先行き判断DIの推移



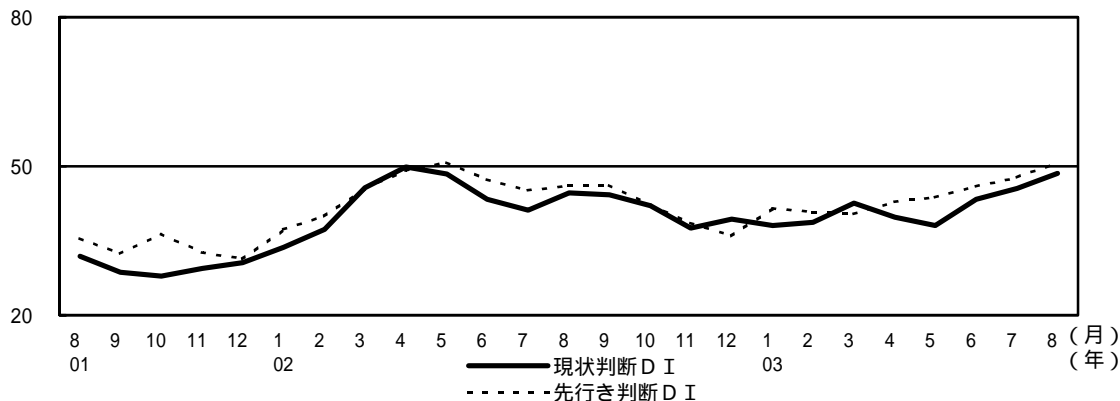
5. 東海

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	・ 冷夏の影響により、水着やパラソルなどの盛夏商材、秋色夏素材の婦人服の売行きが前年を下回っている。しかし、売りつくしセールなどのイベント商戦は好調であるため、気候により大きな影響を受けてはいるが、購買意欲は堅調である(百貨店)。
		・ 冷夏の影響もあり、客単価はさらに低下傾向である。中元ギフトも低価格帯の動きばかりがよく、回復の兆しもない。売上確保のためのチラシ特売でも、より一層単価を下げることに終始してしまっている(スーパー)。
		・ 海外出張の航空券販売は完全に戻ってきている。また個人旅行も国内旅行が中心ではあるが、やや戻りつつある。しかし、パッケージツアーの販売数は、4～8月までの累計で前年の6割となっている(旅行代理店)。
企業 動向 関連	企業 動向 関連	・ 例年お盆休みの時期は工場の機械設備などを交換する業務を行っているが、ここ数年の工事数はとても少なかった。しかし今年は休めないほど非常に忙しくなっている(輸送業)。
		・ お盆前と比べて受注量が急減している。鋼材単価の値上げを各メーカーが発表して以来、様子見が続いているのか、販売量も減っている(鉄鋼業)。
		・ はっきりとはではないが、購買意欲が感じられ、景気が良くなっている兆候がある。相変わらず安い商品ばかり売れているが、多少高額商品でも価値のある商品は動いている(化学工業)。
雇用 関連	雇用 関連	・ 自動車の好調な輸出とマイナーチェンジで、自動車関連の求人数が大幅に増加している。未曾有の人手不足ともいえる状況である(アウトソーシング企業)。
		・ 直接雇用を控えたいという企業の動きは継続している(人材派遣会社)。
その他の特徴 コメント	その他の特徴 コメント	・ 住宅ローン減税が縮小されることを見越した住宅の駆け込み需要で、タイル、陶磁器、衛生陶器やそれらの原料が好調である(窯業・土石製品製造業)。 ・ 冷夏、SARSやイラク戦争の影響が、伊勢地区への観光客は1割ほど増加し、売上も約1割増加している。しかし、鳥羽、志摩地区では、海水浴客の減少が続いている(一般小売店[土産])。
分野	判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連	・ 海外旅行から国内旅行への振り替えが出ており、宿泊予約に明るさはあるが、全体では例年並みである(観光型ホテル)。
		・ 他社が9月以降メイン車種のフルモデルチェンジで新型車を相次いで投入するため、市場全体が活性化する(乗用車販売店)。
	企業 動向 関連	企業 動向 関連
・ 工場生産は増えるものの、価格低下の本格的な影響が出てきて、利益に結びつかないという懸念がある(金属製品製造業)。		
雇用 関連	雇用 関連	・ 管内の基幹産業である製造業の求人は、増減を繰り返しながらもやや増加傾向であり、他の業界も、直接雇用からパート、派遣に移行はしているが増加傾向にある(職業安定所)。
その他の特徴 コメント	その他の特徴 コメント	・ 購買意欲が堅調なかで、地域でリニューアル開店、増床、対抗イベントが相次ぎ、消費がさらに喚起されて、全体の売上も増加する(百貨店)。 ・ 酒類業界は自由化が加速的に進んでおり、どのような状態で落ち着くのか想像できない。店ではアルコール飲料の比率を下げて売上を伸ばす工夫が重要である(コンビニ)。

(D I)

図表24 現状・先行き判断D Iの推移



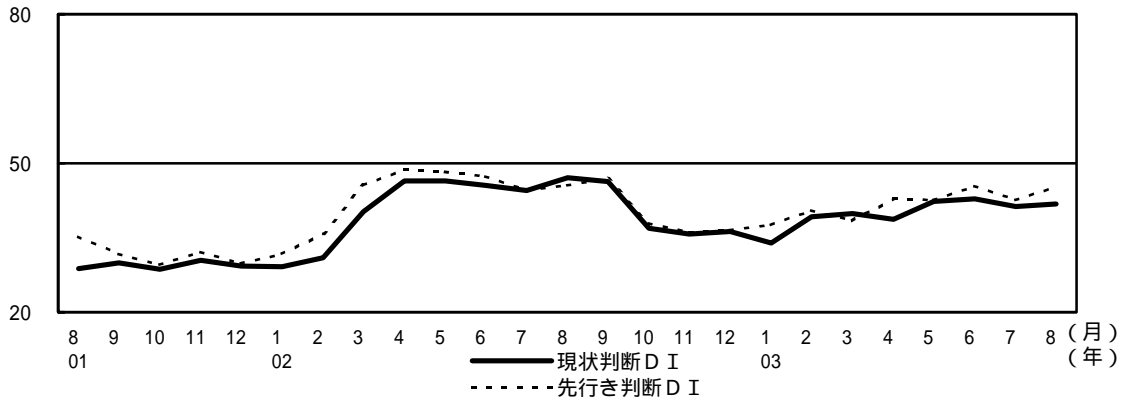
6. 北陸

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・ 8月は天候不順のため、アイスクリーム、飲料、そうめんやつゆなど、夏に売れるべき商品が全く売れなかった。一方、夏場はあまり強くないパンやうどんなどが売れているが、本来の夏商品の不振をカバーしきれなかった(スーパー)。
			・ 海外旅行のパンフレットの持ち帰りが多くなり、受注も徐々に出てきた(旅行代理店)。
			・ 大型のプラズマテレビと液晶テレビが、キャンペーン効果もあって大幅に伸びている。同じサイズのブラウン管式と比べて単価が2倍以上のため、売上に大きく寄与している(家電量販店)。
	企業 動向 関連		・ 移動体通信関係の部品は供給過剰となっており、価格崩れが始まっている(電気機械器具製造業)。
			・ 冷夏のため飲料関係も動かず、出荷量は前年に比べて半分以下であった。気温が低いため、本来夏場に売れないカップラーメンなどが少し動いたが、量的に少ないため、厳しい月となった(輸送業)。
	雇用 関連		・ 通信業界は非常に上向きになっている。ブロードバンド回線も計画額を大幅に上回り、また、案件も計画以上に進ちょくしている(通信業)。
		・ 中小企業から採用未定者に関する問い合わせが結構ある(学校[大学])。	
その他の特徴 コメント			・ 車関連企業、工作機メーカー、ハウスメーカー、アルミ関連企業、医薬品メーカーなどからの求人が増加している(民間職業紹介機関)。 ：夏に強いステーキ専門店は、冷夏のため例年を大幅に下回り、低価格のバイキングだけが好調だった(高級レストラン)。 ：住宅ローン控除の期限切れで、客に住宅の計画を変更する様子がみられる。自己資金の範囲内または少額の借入れを加えた範囲内にとどめるため、新築が減少し、リフォームが増加している(住宅販売会社)。
先行き	家計 動向 関連		・ 10月1日からパソコンリサイクル制度が実施されるため、直前の9月までパソコン特需はあるが、その反動で年末まで厳しい動きが予想される。他の商品ではとてもカバーできない(家電量販店)。
			・ 秋物の立ち上がりが早いと、2、3か月先には秋物商材の中だるみや冬物商材の早期立ち上がりが予想される。このまま天候不順が続けば、客の買物の仕方にも変化が生じ、冬物が動かないなど不安な状態が続く(百貨店)。
	企業 動向 関連		・ 新しい仕事への取り組みなど、景気の良い状況にみえる会社も一部にあるが、個人破産、民事再生など一般消費者からの相談も相変わらず多い(司法書士)。
			・ ブロードバンドのキャンペーンを実施していることもあり、計画を2~3割上回っている。システム案件も公共事業、民需ともに好調で、引き続き良い傾向が続く(通信業)。
	雇用 関連		・ 求人件数は前年比で若干落ちている(新聞社[求人広告])。
	その他の特徴 コメント		

(D I)

図表25 現状・先行き判断D Iの推移

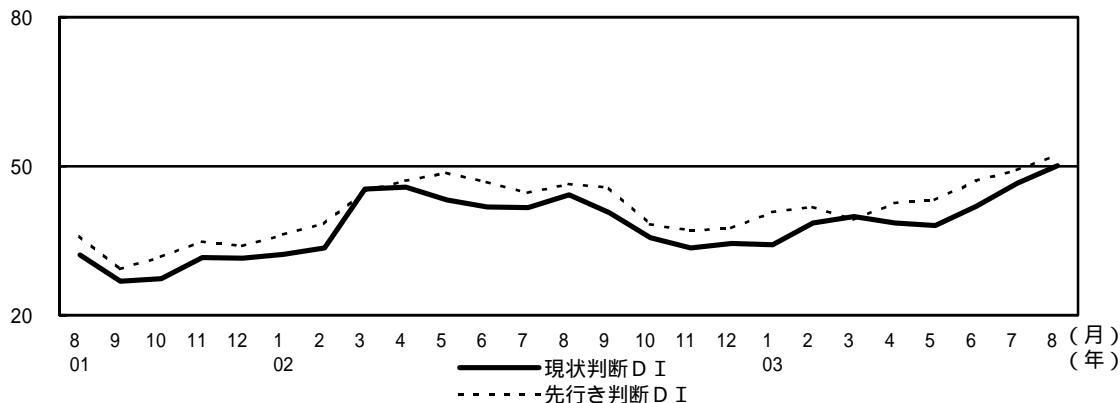


7. 近畿

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・長梅雨、冷夏などの天候不順により、夏物季節品の売上が大きく落ち込んでいる。初秋物を前倒し投入したが、夏物季節品の落ち込みをカバーするには至っていない(スーパー)。
			・特選オーダーメイド商品もジュエリーを中心に動きが活発で、特に100万円以上の高額商品も動きが良く、ジュエリー、雑貨と順調に推移している(百貨店)。
			・住宅展示場への来場者の減少が目立つ。各出展ハウスメーカーのモデルハウス来場者数も減少している(その他住宅[展示場])。
	企業 動向 関連		・中小企業の製造業の社長に話を聞くと、景気が良くなっているとの実感はないが、底を打ったと感じている(金融業)。
			・新規案件が増えつつある。その一方で夏の屋外型イベントの中止件数が例年になく多かった(その他サービス業[イベント企画])。
	雇用 関連		・法人向けのアウトソーシング業務は、休業する企業の増加と休業期間の長期化で、例年よりも大きく落ち込んだ(コピーサービス業)。
		・中小企業の求人数が3か月前ほどから少し回復基調にあるが、このところは横ばいとなっている。しかし、各企業に強くプロモートすると求人が出てくるという感がある(新聞社[求人広告])。	
その他の特徴 コメント			・今月は盆休みも含めて動きが鈍かったが、25日からの週は活発に動き出している。特にIT関係においては、作り込み作業が終わりテスト段階に入っているため、テスター、オペレーター等の注文が大量に入ってきている(人材派遣会社)。 ：宿泊の客室稼働状況はやや前年を下回っているが、大型テーマパークの客や高校野球の応援団の宿泊が入るなど、まずまずという状況である(都市型ホテル)。 ：需要のピークである8月は、昨年対比をみると順調とはいえないが、5、6月との比較では9割程度まで海外利用客が戻りつつある(旅行代理店)。
先行き	分野 判断		判断の理由
	家計 動向 関連		・集客方法やターゲットの絞り方次第で、旅行需要はかなり見込める。しかし、低料金が定着してしまったのか、売上全体としてはかなり厳しい状況が続く(観光型ホテル)。
			・宝飾、時計や海外ブランドなどの高額品に対する購買意欲が高まっている。百貨店では高額品がけん引役となり一般商品に拡大していく傾向があるため、秋物衣料品がスムーズに立ち上げれば、年末まで拡大基調は続く(百貨店)。
	企業 動向 関連		・不動産賃貸業に限っては、賃料の上昇を見込める要素は何らなく、現状維持が精一杯である(不動産業)。
			・自動車及び関連業種で設備更新の引き合いが増えてきたように思われることから、先行きに期待できる(輸送用機械器具製造業)。
雇用 関連		・求人倍率の改善などの好材料もみられるが、求人広告の本格的回復にはもう少し時間がかかると思われる(新聞社[求人広告])。	
その他の特徴 コメント			：今まで銀行には見向きもされなかったが、ここへきて中小企業融資ということで、積極的な姿勢が出てきた。金融機関のバックアップが前向きになってきていると考えられることから、先行きに期待できる(窯業・土石製品製造業)。 ：当社の基盤であるミセス層の財布のひもは、依然固そうである。ただ在阪球団の優勝セールなどの盛り上がりが見込めることから、現状は維持できる(百貨店)。

(DI) 図表26 現状・先行き判断DIの推移



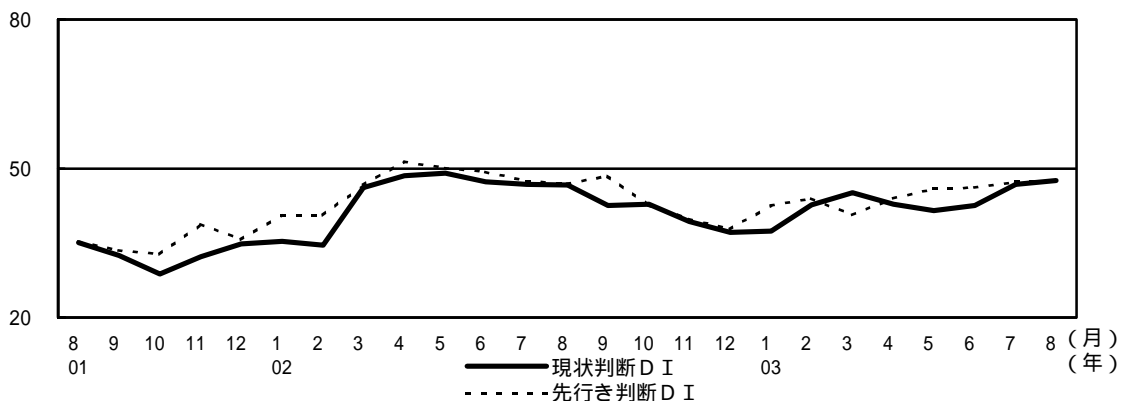
8. 中国

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
			・悪天候と冷夏の影響で、乳飲料を中心に、バーベキューの食材や麺類が軒並み低調である。ただ、例年この時期に販売量が減る、パン及び菓子類が1割以上伸びている(スーパー)。
			・レディースの客は秋物、メンズの客はまだまだ夏物と、売れ筋が極端に分かれている。また、夏秋とまとめて買う客が結構いるため、売上、来客数ともに120%まで伸びている(衣料品専門店)。
企業 動向 関連			・天候不順のため果物が作柄不良で、桃やぶどうなどの荷動きが悪くなっている(輸送業)。
			・セメント関係は引き続き厳しい状況にあるものの、化成品、電子材料などが若干持ち直して来ている(化学工業)。
雇用 関連			・第1四半期好調の反動で、生産量が減少している(窯業・土石製品製造業)。
			・新規求職申込件数が前年同月比で22か月連続の増加が続いている。常用求職者を態様別にみると、在職者からの申込みが大きく増加している(職業安定所)。
その他の特徴 コメント		・正社員とパート社員の意識の差を理由に、今までパートを中心に雇用してきた工場内の組立工員を常用社員に切り替えている企業がある(民間職業紹介機関)。 ：例年8月には来客数が多いが、今年は長雨による影響で、更に来客数が増えている(パチンコ店)。 ：既存製品の受注が高止まりしており、新製品の受注に生産が追いつくのが精一杯である(輸送用機械器具製造業)。	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・これまで減収部分をコスト切り詰めにより補完する増益策を採っていたが、9月からはモデルチェンジや広告媒体などを積極的に用いた、増収を目指す動きが目立ってきている(百貨店)。
			・このところの天候不良で、野菜などは高くても物が悪い状況が続いているので、どちらかといえば悪くなる(スーパー)。
	企業 動向 関連		・仕事を選べる状況ではなく苦しい状況だが、ベンチャー企業のプレゼンテーションの機会も若干増えてきており、中小企業の中でも技術を持った所が、商品化を行って販売先を求める動きが出てきている(金融業)。
			・8月の受注でも自動車関連材料は引き続き堅調に推移しており、エレクトロニクス材料にもやや動きが出始めていることから、若干上向きの傾向が出てきている。特に半導体関連の材料は、予想通り9月以降の増加が見込まれており、全体をけん引する動きをみせている(鉄鋼業)。
雇用 関連		・新規採用できるということはそれだけ余力もある証拠ではあるが、リストラが一段落したところでの求人なので、単純に上向きと判断はできない(民間職業紹介機関)。	
その他の特徴 コメント		：国内の売上において、冷夏の影響が少なからず発生する見通しである(一般機械器具製造業)。 ：大手電気メーカー製造工場の大幅なリストラ計画が発表され、新規求職が引き続き高水準で推移することが確実となっている(職業安定所)。	

(D I)

図表27 現状・先行き判断D Iの推移

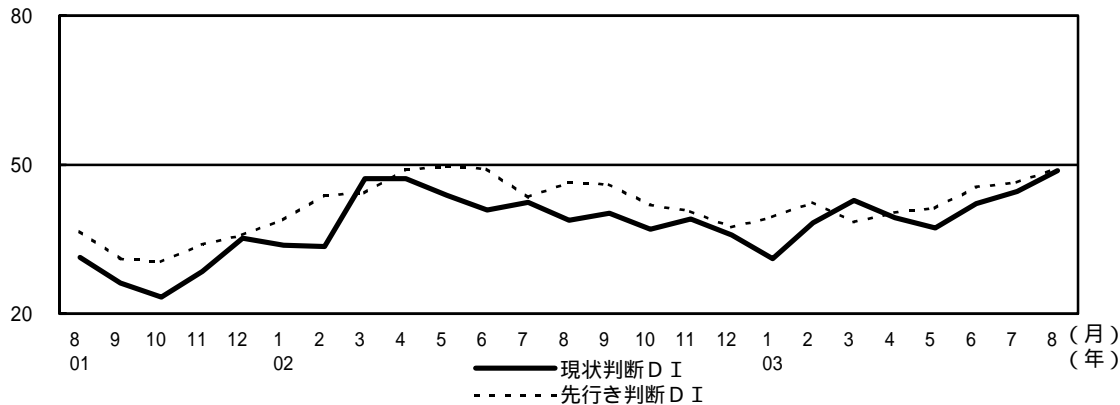


9. 四国

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計動向 関連	
			・8月は雨の日が多く、冷夏であったため、夏物の売行きが悪く、3時間の営業時間延長を実施していなければ、昨年の売上を確保できない状況であった(スーパー)。
			・3か月前は、SARSの影響により旅行業界全体が冷え込んでいたが、SARSも沈静化して人の動きも活発になり、航空券、国内旅行は、比較的堅調であった(旅行代理店)。
企業動向 関連			・約200社の決算状況を見ると、売上は前年比のマイナス幅が縮小してきており、景気は少し落ち着いてきた(公認会計士)。
			・建築基準法改正による使用制限を受けない(フォスター)内装材の在庫増しと、住宅ローン減税の駆け込み需要があった(家具製造業)。
雇用 関連			・企業の採用動向は、早期化、長期化の傾向が強い。また、即戦力となる人材を求めているため、新卒者にとっては不利である(学校[大学])。
			・業種、事業内容によって、求人数の差が非常に大きい(求人情報誌製作会社)。
その他の特徴 コメント		：よさこい祭りの50周年記念イベントの効果から、県外客の乗車率が増加した(タクシー運転手) ：3か月前と比較して求人には少し陰りがあるが、今いる社員の能力向上を図るための研修等のニーズが出てきた(求人情報誌製作会社)。	
先行き	家計動向 関連		・客単価は前年並みに回復したが、競合店の増加で来客数は今以上の増加が見込めない。また、駆け込み需要のあった酒、たばこの売上も前年並みに戻り、自家製弁当の販売に力を入れたが、客の消費意欲は感じられない(コンビニ)。
			・天候不順により、米の値段が買値で30kg当たり1,000円~2,000円高くなっており、また、冷夏の影響で野菜の高値も予想されることから、ますます財布のひもが固くなる(一般レストラン)。
	企業動向 関連		・これといった産業がない地方部では公共工事に依存しているため、それが減少していく状況では、景気の底ばいが続く(金融業)。
			・マンションを探している客の希望する家賃が、昨年と比較すると、少し高めになっている傾向がある(不動産業)。
	雇用 関連		・パートを含む有効求人倍率は0.48倍と7か月ぶりに改善した。しかし、警備業、美容師、看護師など一部業種での求人増加が要因であり、全体的な改善傾向は感じられない(職業安定所)。
その他の特徴 コメント		：量販店や小売店のキーマンと新規の設備投資の商談をしたときに、投資に対する姿勢が守りから攻めに変わってきたと感じた(通信業)。 ：地元大手建設会社の民事再生法申請によって、懸念されていた連鎖倒産が現実となり、まだ続くのではないかと心配されている(広告代理店)。	

(D I) 図表28 現状・先行き判断D Iの推移



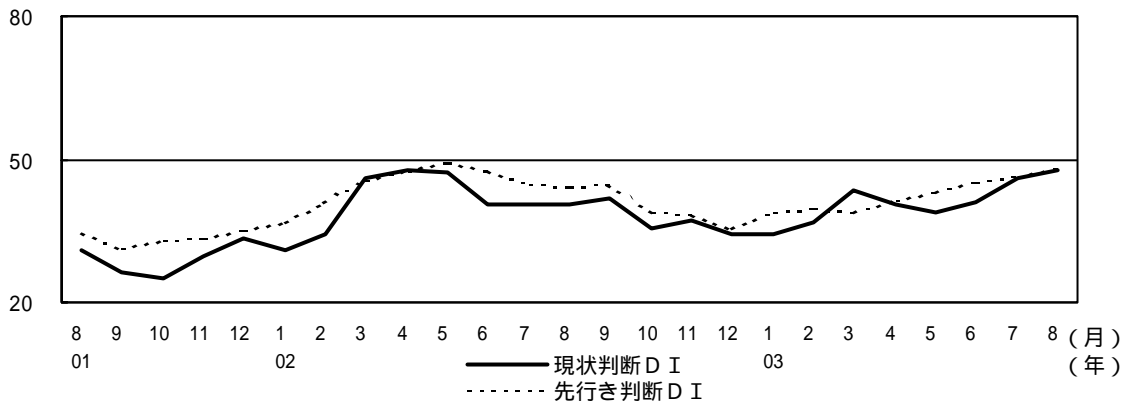
10.九州

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由	
	現状	家計 動向 関連		・ 8月中旬より秋物商品を展開しているが、動きが鈍い。売上はセール時が中心となり、客単価が下がっている（百貨店）
			・ 雨の日が多く足下が悪い、商店街への来客が少ない。長雨のため野菜等が高騰し、客の買い控えが起こっている（商店街）	
			・ カメラ付き携帯電話の高値新機種人気も落ち着いたが、価格引下げで需要がさらに伸びている。価格が安ければ携帯を買い換えたいと思っている客が多い（通信会社）	
企業 動向 関連			・ 官公庁、民間工事とも見積積算件数は増加傾向にあるが、競合により受注につながるケースが少ない（建設業）	
			・ 原料価格が上昇基調にあるが、製品価格も強含んでおり、採算は現状安定している（鉄鋼業）	
雇用 関連			・ 半導体大手の動きは、在庫調整によりやや鈍っている。また、同業他社も、8月に入ってから動きが非常に鈍いという話を聞く（電気機械器具製造業）	
			・ 営業・販売職、テレマーケティング部門で求人が増加傾向にある。これらは、企業の販売力増強につながる職種であり、良い方向への動きである（民間職業紹介機関）	
その他の特徴 コメント			・ 夏の求人広告は、比較的落ち込みが少なかった（新聞社 [求人広告] ） ： S A R S の影響も薄れ、夏休みの家族旅行が増加している。海外旅行は、単価は低いものの、人員ベースでは前年比 95% まで回復している（旅行代理店） ： 新規求人数が 6 か月連続で増加している。住宅や公共投資が低水準で推移する建設業においても、半導体製造業や自動車、精密機械関連等の設備投資の増加から、新規求人数が 3 か月連続で増加している（職業安定所）	
先行き		分野	判断	判断の理由
		家計 動向 関連		・ 消費者が買物に対して非常に慎重である。この状態はしばらく続く（商店街）
			・ 住宅ローン減税に伴う動きがみられなくなり、金利も上向いてきたことから、住宅需要は冷え込む（住宅販売会社）	
	企業 動向 関連		・ 国産食肉の需要は続いており、今後もあまり変わらない（農林水産業）	
			・ ここ数か月、折込広告の受注件数は前年を上回り、受注価格もサイズの型が大きくなったため増えた。この傾向は今後しばらく続く（広告代理店）	
	雇用 関連		・ 電気機器製造業において、生産品目がかなりの規模で他地区、他社へ移管しており、今後離職者の発生が懸念される（職業安定所）	
その他の特徴 コメント			： 郊外に魅力的で大規模な商業施設が次々と計画されており、更に来街者減が見込まれる（商店街） ×： 9月の酒類販売自由化を控え、酒屋のやる気が完全に損なわれている。今後、酒類業界は更に厳しくなる（経営コンサルタント）	

(D I)

図表29 現状・先行き判断D Iの推移

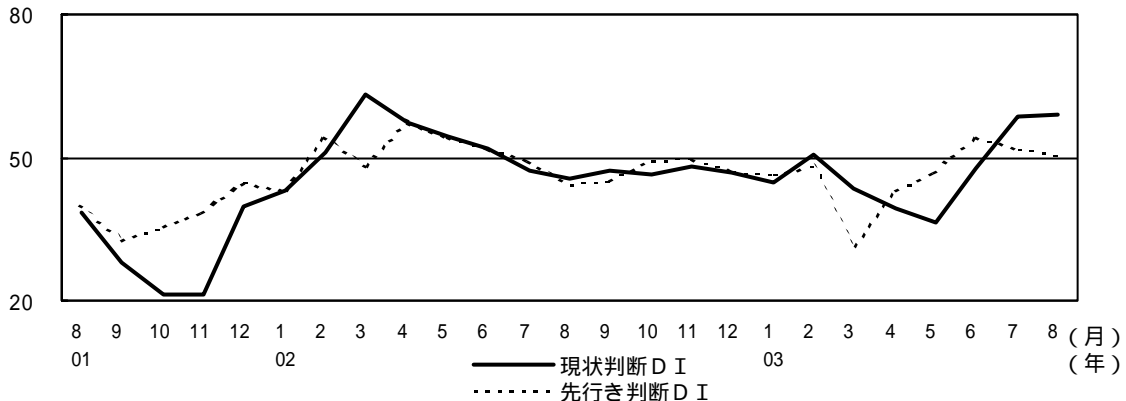


11. 沖縄

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
			現状
現状	家計 動向 関連		・ 熱暑の影響で、飲料の販売数が増加している(コンビニ)。
			・ 見学会へ来客する客には、二世帯住宅を検討される方が増加している傾向にはあるが、景気を上向きにするほどの需要増は見込めない(住宅販売会社)。
			・ 集客策及び販促強化として電子メールや封書等による情報広報をしているが、月間を通して客の購買意欲は低く、客単価の下落が続いている(家電量販店)。
	企業 動向 関連		・ 受注単価及び契約価格が上昇している(建設業)。
			・ 価格を下げ、広告量を増やしても、問い合わせ件数、受注件数がともに少ない(不動産業)。
	雇用 関連		・ 求人数はやや増加傾向にあるが、営業関連の職種が多く、それらの職種への応募希望学生は少ないなど、ミスマッチの状況にあることから、なかなか就職につながっていない(学校[大学])。
		・ 契約の更新等は順調に進んでおり、さらに観光産業が大変好調ということもあり観光産業関連の求人を求める声が多くなっている(人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント			： 予想以上に来客数が多く、前年同月の実績を超えている。特にレンタカー利用の家族、若者の来客者が目立っている(観光名所)。 ： 8月に開通したモノレールによって、来客数、販売数ともに変化が見られ、売上が上昇している。しかし、一過性ともみられることから、好転との判断は難しい(百貨店)。
先行き			判断の理由
先行き	家計 動向 関連		・ イラク戦争後のテロ発生等により、海外への旅行者が国内旅行にシフトし、その結果、国内でも地理的、文化的に特異性を有する沖縄への旅行が好調となっているとみられることから、当面この傾向は続く(観光名所)。
			・ 現段階での先々の予約状況は好調であり、今後も増加が見込まれる(都市型ホテル)。
	企業 動向 関連		・ 新規の物量増加が見込まれるため、若干良くなる(輸送業)。
			・ 見積依頼は多いものの、成約につながるまでには流動的な面があり、今後も特に変化は期待できない(輸送業)。
	雇用 関連		・ 企業の方と話をする機会があるが、特に建設業の先行きが見えないという印象が非常に強く、学生の就職への影響が懸念される(学校[専門学校])。
その他の特徴 コメント			： S A R Sの影響により大幅に減少していた海外旅行件数だが、今月も含め、9月以降の申込件数が増加しており、前年度の数値には依然として届かないものの、近い数値までの回復が期待される(旅行代理店)。 ： 今年の秋口にかけて、県内での大型店の出店等が予定されており、今後ますます競争が激化する(スーパー)。

(D I) 図表30 現状・先行き判断D Iの推移



(参考) 景気の現状水準判断 D I

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった(注)。

図表 31 景気の現状水準判断 D I

(D I)	年 月	2003 3	4	5	6	7	8
合計		33.0	29.8	29.5	32.4	34.3	35.9
家計動向関連		33.2	29.3	28.8	31.4	33.1	34.4
小売関連		32.2	28.2	28.6	30.8	30.9	32.3
飲食関連		33.5	32.2	28.0	30.8	33.2	28.1
サービス関連		34.8	30.3	28.0	32.1	37.7	40.4
住宅関連		34.8	31.0	34.1	34.8	32.7	34.0
企業動向関連		32.3	30.3	31.2	34.6	37.0	38.3
製造業		34.2	31.5	32.9	37.0	40.5	41.5
非製造業		29.7	28.8	29.0	31.9	33.7	35.3
雇用関連		32.9	32.4	31.1	34.3	37.2	40.5

図表 32 景気の現状水準判断 D I (各分野計)

(D I)	年 月	2003 3	4	5	6	7	8
全国		33.0	29.8	29.5	32.4	34.3	35.9
北海道		33.2	24.4	24.0	30.2	32.1	32.4
東北		31.0	28.3	28.7	30.3	30.7	31.8
関東		30.9	29.8	28.8	32.0	31.8	34.2
北関東		28.4	28.1	28.0	29.8	30.2	30.2
南関東		32.3	30.9	29.2	33.3	32.8	36.5
東海		35.4	30.9	31.7	33.3	37.2	40.6
北陸		33.0	30.8	33.0	32.2	35.8	32.4
近畿		31.1	28.1	28.1	32.2	35.7	36.3
中国		37.8	35.0	35.1	34.3	37.1	38.8
四国		27.8	24.5	23.5	28.3	30.1	33.0
九州		37.1	32.4	30.9	34.5	36.1	37.6
沖縄		39.3	33.9	32.7	43.1	49.4	52.4

(注) 景気の現状をとらえるには、景気の方角性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。